病診連携通信
第2号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
平成26年11月

脳卒中科医師着任のお知らせ（ご挨拶）

平成２６年９月１日より、日本脳卒中学会専門医『芝崎謙作（しばざき　けんさく）』が着任し、**脳卒中診療を開始**いたしました。

脳卒中科では、**脳梗塞**や**脳出血**（外科的処置を要さない）、また**一過性脳虚血発作**（24時間以内に片麻痺や言語障害などの症状が消失する病態で脳梗塞に移行しやすいとされております）を中心に 診療を行います。

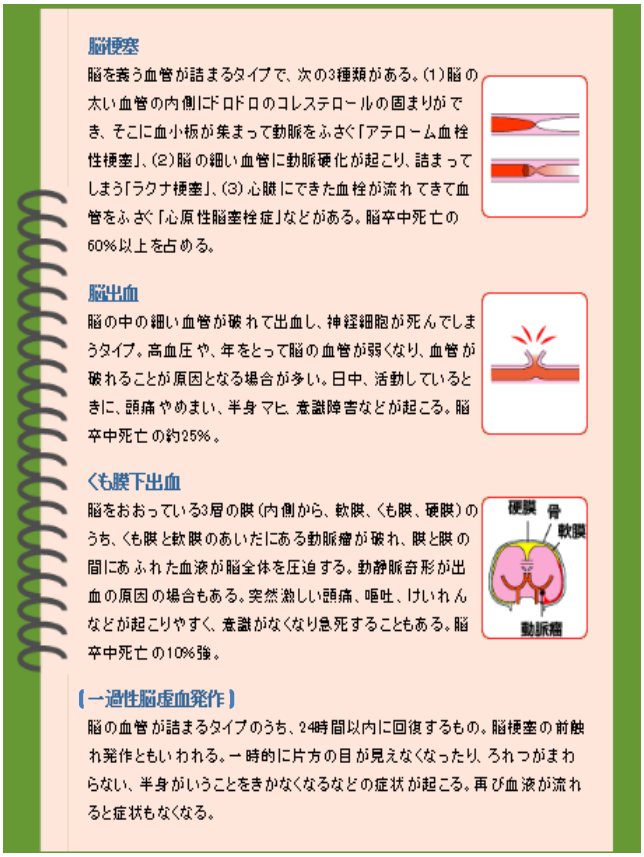
今や「脳卒中」は本邦における死因の第4位（図3）を占め、2020年には300万人に達すると推測されています。高齢化社会のなかで増加する脳卒中の診療で地域医療に貢献したい所存です。

外来診療日は月曜日 の 午前、予約制 ですが、診療時間内の診察依頼や相談には応じます。**発症早期の脳卒中**が疑われる患者さん（主に**片麻痺、言語障害**）をぜひご**紹介**いただきたくお願い申し上げます。

ご紹介いただく際には、下記の地域医療連携室にご連絡をお願いいたします。

当院の3.0T MRI装置 (図1)

脳卒中のタイプ（図2）



脳梗塞

脳を養う血管が詰まるタイプで、次の3種類がある。(1)脳の太い血管の内側にドロドロのコレステロールの固まりができ、そこに血小板が集まって動脈をふさぐ「アテローム血栓性梗塞」、(2)脳の細い血管に動脈硬化が起こり、詰まってしまう「ラクナ梗塞」、(3)心臓にできた血栓が流れてきて血管をふさぐ「心原性脳塞栓症」などがある。脳卒中死亡の60%以上を占める。

脳出血

脳の中の細い血管が破れて出血し、神経細胞が死んでしまうタイプ。高血圧や、年をとって脳の血管が弱くなり、血管が破れることが原因となる場合が多い。日中、活動しているときに、頭痛やめまい、半身マヒ、意識障害などが起こる。脳卒中死亡の約25%。

くも膜下出血

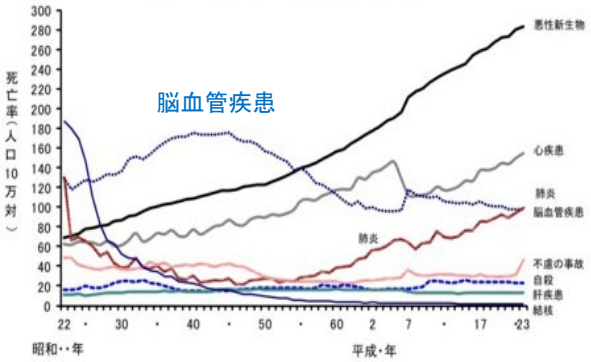
脳をおおっている3層の膜（内側から、軟膜、くも膜、硬膜）のうち、くも膜と軟膜のあいだにある動脈瘤が破れ、膜と膜の間にあふれた血液が脳全体を圧迫する。動静脈奇形が出血の原因の場合もある。突然激しい頭痛、嘔吐、けいれんなどが起こりやすく、意識がなくなり急死することもある。脳卒中死亡の10%強。

【一過性脳虚血発作】

脳の血管が詰まるタイプのうち、24時間以内に回復するもの。脳梗塞の前触れ発作ともいわれる。一時的に片方の目が見えなくなったり、ろれつがまわらない、半身がいうことをきかなくなるなどの症状が起こる。再び血液が流れると症状もなくなる。

（厚労省ホームページより）

死亡率の年次推移(図3)



寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせは

寿泉堂綜合病院　地域医療連携室　☎024－927－0760（直通）　または

☎024－932－6363（代表）

にお願い致します。